# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
ここに当社グループ第86期中間期（平成26年４月１日から平成26年９月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境につきましては、世界経済のけん引役であった新興国の成長鈍化、ウクライナ・中東情勢の不安定さや円安による原材料・燃料価格の高止まりに加え、期後半には欧州市況が不安定となりました。さらに本年４月に国内で実施された消費税増税による駆け込み需要の反動や天候不順等による個人消費の落ち込みなど、景気の回復に停滞感が現れ、先行きが不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは事業拡大の施策として、電池事業においては６月にFUJITSUアルカリ乾電池シリーズならびにFUJITSU充電式電池シリーズの性能アップに伴ってデザインを一新し市場投入しました。リチウム電池については欧米において防災機器・セキュリティ用途ならびに車載用途向けで需要が旺盛であったため、生産・供給数量の拡大に注力いたしました。電子事業においても、ハイパワーインダクタ、低背タイプのパワーインダクタならびにDC−DCパワーモジュールの開発、量産化に取り組みました。

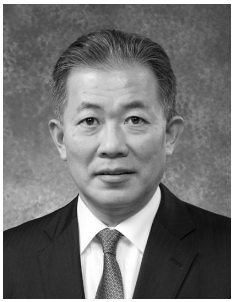
当中間期の経営成績につきましては、売上高は液晶ディスプレイ用信号処理モジュールならびに市販用途向けニッケル水素電池の売上減により、前年同期に比べ37億35百万円減の355億72百万円となりました。損益面につきましては、電池事業における技術VEと購買コストダウンによる材料費削減が原価低減に大きく寄与したものの、電子事業における液晶ディスプレイ用信号処理モジュールなどの大幅な売上減による損失が大きく、営業利益は前年同期に比べ５億93百万円減の４億55百万円となりました。経常利益は前年同期に比べ５億65百万円減の４億19百万円、中間純利益は前年同期に比べ33百万円減の４億51百万円となりました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申しあげます。

下期以降につきましては、電池事業において第３四半期が最需要期になります。上期に市場投入したFUJITSUアルカリ乾電池シリーズならびにFUJITSU充電式電池シリーズをグローバルに展開することなどにより国内外で売上の拡大を図ってまいります。さらに、防災機器・セキュリティ用途、車載用途などで需要が旺盛なリチウム電池についてさらなる拡販を行なうとともに、今後期待される薄形リチウム電池の新規用途開発に取り組みます。
また、電子事業については、電気化学技術、素材技術をはじめとした当社グループが保有するさまざまな技術を活かし、エネルギーマネジメント分野で求められている高効率な電子部品を開発・供給することにより事業価値の向上を推し進めてまいります。
これらの成長の施策と収益基盤のさらなる強化に向けた各施策を実行することにより確実に成果に結びつけてまいります。

また、このたび当社は、連結子会社であるFDKトワイセル株式会社を、当社を存続会社として本年12月に吸収合併することを決定いたしました。FDKトワイセル株式会社はニッケル水素電池およびパック電池の開発、製造会社であり、両社の経営資源の相互活用による効率化、同社が保有する電池と当社の保有する電子部品との複合製品の開発スピード向上によるビジネスの一層の強化を図ってまいります。さらには、マイクロウェーブ事業の売却をはじめとした事業の選択と集中など企業価値向上の施策を進めることにより、事業環境の変化に柔軟に対応してまいります。

FDKグループはこれからも材料、素材の持つ無限の潜在力を引き出し、グループ全体の技術を結集して安心で安全な価値ある製品をお客様にご提供し続けることにより、“様々なかたちで社会に貢献できるエネルギーマネジメントメーカー”を目指してまいります。
今後とも引き続きFDKグループをご支援賜りますよう宜しくお願い申しあげます。



平成26年12月

代表取締役社長　望月道正